

景観配慮事項記述書

区域区分		景観形成の基本方針に配慮した計画における基本的な考え方
市街地 ゾーン		オフィスビル・高層マンションが立ち並ぶ殺伐とした雰囲気にならないよう、緑化やセットバックをすることで潤いのある住環境の創出に努めるとともに、落ち着いた外観・デザインとし周辺との調和を図った。
項目		景観形成基準その他景観に配慮した事項
建築物	配置	建築物を可能な限り前面道路より後退させ、道路境界部に高木を設置することで、道路からの視界障害を図り、建築物のボリューム感を抑えるとともに、住民のプライベートスペースを創出し、ゆとりある住環境とした。
		良好な眺望景観を確保し、周辺建築物との調和を図るため、勾配屋根とした。周囲道路への圧迫感を与えないよう、無窓壁を極力抑えるとともに、高層部の壁面を低層部の壁面よりセットバックした。
		屋根及び外壁にアースカラーを採用した。また、経年による退色の少ない材料を採用することで、持続する景観形成に努めた。外壁は、景観アドバイザーの助言に従い、色相を10YRで揃え調和するようにした。
	建築設備	敷地内駐輪施設においても、建築物との形態意匠との調和を図り、統一した材料を用い、勾配屋根とした。景観アドバイザーの助言を受け、フェンスは建築物及び周囲の景観に馴染むように茶色のものを選んだ。
		道路境界部の生垣及び高木に加え、敷地内に芝生を設けることで潤いのある住環境とした。また、駐車場スペースには、自然色の保水性舗装を採用し、蓄熱による環境負荷の低減に配慮した
	工 作 物	位置
形態		
素材		
色彩		